

滋賀県レイカディア大学 同窓会

甲賀・湖南支部だより

第15号

滋賀県レイカディア大学
同窓会 甲賀・湖南支部
発行責任者 橋本 元夫
TEL 0748-88-3730

<主な内容>

巻頭言 小林 和雄(22期 陶芸).....P2

活動記録

私とよし笛の出会い 日高 博憲(34期 地域文化).....P3

私たちの取り組み(園芸学科実習助手) 太原 美智子(33期 園芸).....P4
林 加代子(33期 園芸)

楽しくボランティア(高齢者サロンで楽しむ) 高田 信男(33期 園芸).....P4

藤岡さんの地球一周の船旅作品展を訪問 鈴川 晴一(30期 園芸).....P6

同好会活動記

津市石山観音公園石仏めぐりと関宿散策 赤瀬川 忠(24期 園芸).....P6

支部からのお知らせ

支部定期総会開催 副支部長 植西 偉文(28期 陶芸).....P7

本部定期総会開催 副支部長 植西 偉文(28期 陶芸).....P8

第1回グランドゴルフ大会 村上 幸一(23期 スポ).....P10

みんなの広場

短歌 安楽 忍(19期 文芸).....P10

随筆 子を恋う 大西 幸(21期 生活).....P11

随筆 信楽高原鉄道とりサ・ラーソン展 大平 稔美(34期 園芸).....P12

編集後記 広報文化部 高山 雅史(31期 地域文化).....P13



写真関連記事はP12

巻頭言 趣味とボランティアについて

甲西地区代表理事 小林 和雄 (陶芸 22期)

私は、平成6年3月をもって公務員を定年退職いたしました。その時に先輩から、退職後、家にこもりテレビのチャンネルばかりを管理するのではなく何か趣味を見つけるようにせよ、との助言をもらい、自分に出来るものは何かと考えた末、陶芸でもするかと、地域の老人クラブ主催の陶芸教室に入会しました。

そこでレ大の先輩から、同じ技術を修得するのであれば、基礎からプロの陶芸家から指導を受ける方がよいと進められ平成10年10月県レイカディア大学第22期陶芸学科に入学、2年間の学習を得、平成13年9月同学科を卒業、引き続いて10月より2年間第25期陶芸学科の指導教官の助手として従事いたしました。

また、同時期に県レ大同窓会・甲賀支部に入会、先輩諸氏の指導のもと、同窓会事業及び地域活動、ボランティア活動に積極的に参加してきました。

現在は、地域の老人クラブ連合会陶芸教室の世話役として、会員約50名のための管理運営、諸活動の援助、社会福祉ボランティア事業を行っています。

その他には、地元小学校の下校時の見守りボランティア、高齢者会員の自家用車での送迎、社協ボランティアセンター主催の夏季障害者に対する陶芸教室指導等多種にわたり、体の元気のうちは協力しようと思っております。



活動記録

私と「よし笛」の出会い

甲西地区 日高 博憲(地域文化 34期)

レイカディア大学入学後に始めた「よし笛」は、23名のメンバーと月4回楽しみながら練習を重ね、地域ボランティア活動として老人ホームや介護施設など、月1~2回程度の訪問演奏をしています。

私は2011年10月レイカディア大学34期生として地域文化学科に入学しました。その年の12月、大学の地域活動体験学習として湖南省ボランティアセンターを訪問し、ボランティア体験講座に参加、各種ボランティア代表から活動について説明を受けました。その中で「湖南省琵琶湖よし笛アンサンブル」蟹江代表からサークルの活動内容の説明を受け、よし笛の実演をして頂きました。何とも言えない「よし笛」の音色に引き込まれ「これだ」と飛びつきその場で入会をお願いしました。体育会系の私はリタイア後も屋外での活動が中心の生活をしていたので、日頃から一つぐらい物静かに楽しむ趣味があっても良いのではと思っていました。このボランティア体験講座での「よし笛との出会い」は本当に良い機会に恵まれたと喜んでます。



サークルにはレイ大同期の新見さんと他の3人が入会し、新人5名は翌年(2012年)1月から3月まで別のプログラムで毎週2時間の指導を受けました。全体練習の参加資格は「琵琶湖周航の歌」の演奏が出来ることでした。4月には5名共に全体練習に参加を許されました。6月に「日本よし笛協会定期演奏会」が開催され、我サークルも大ステージに立つことになりました。新人の私はとても出場は出来るレベルではなかったのですが、代表や先輩たちから背中を押され演奏3曲を集中的に特訓して出演、大ホールステージ上で高揚した気持ちの中で初体験の演奏が出来ました。

この体験はその後の私の練習への取り組みに弾みをつけることになり、地域ボランティア活動として各種施設の訪問演奏に参加することになりました。また、2013年8月にはレイ大大学祭ステージ演奏に先輩たち17名と出演、グループ・演奏曲の紹介などMCを担当し4曲演奏して会場から大きな拍手を頂きました。

よし笛を始めてから4年目になり笛も3本に増えました。曲のイメージで音色の違う笛を使い分けて演奏を楽しんでいます。昨年1月から家内もサークルに参加し、自宅で夫婦練習もしています。家内と会話の機会も増え家庭円満にも役立っています。

「よし笛」は琵琶湖に生育する自然の葦で作られた、約長さ23cm・直径15mm・重さ15gのどこにでも持ち運びが出来る小さな楽器です。一本一本手作りの楽器であり同じ音色の笛は有りません。その音色は本当に癒されます。プロの演奏を聴くと己のレベルの低さを嘆きながら、いずれはプロレベルの演奏をとの思いで練習に励んでいます。



生涯の宝物を得た気持ちです。

これからもよし笛を楽しみながら、地域ボランティア活動に取り組みたいと思います。

私たちの取り組み

—園芸学科実習助手—

甲賀地区 大原 美智子(園芸 33期)・林 加代子(園芸 33期)

私たち二人は、古くからの友達で、同じ甲賀町ですので、レイカディア大学の入学も、学科の選考もすべて歩調を合わせ、2年間学ぶことができました。そして、平成24年9月 卒業を前に、卒業後、色々な方面でのボランティア活動を検討する中で、2年間学んだ園芸学科の実習助手のボランティアを求めておられることを知り、最初は実習の助手をするなんて、秀でた能力がある訳でもないのに、烏滸がましい！とは思ったのですが、2年間学んだ上に更に学ぶ機会が出来るし、これまた二人で挑戦すれば、なんとかなる！さすがに年の功と言いついて二人で申し込みました。

こうして卒業と同時に、この同窓会とサポート隊に加入し、サポート隊の活動の一環として園芸実習の助手を担当することになったのです。

園芸実習のサポート隊としては現在9名が登録されていて、私たちは園芸学科の水島先生の実習授業のお手伝いをさせて頂いています。

お正月前の寄せ植え、山野草寄せ植え、野菜のポット栽培、花壇作り、春、秋の草花栽培等の実習日に二人で早めに学校に行き、先生と打ち合わせ、資材の搬入、授業中の材料の分配、先生が実際にいろいろな説明をしながらお手本を示され、続いて生徒の皆さんが作業をされるのですが、その時に、皆さんからこれで宜しいか？これはどうしたらいいのですか？と次々質問が私たちにも飛んできます！

そんな時、いささか曖昧なお返事になることもありますが、実習の助手と言うより、皆さんと一緒に楽しく学ばせて頂いている落第生と言った感じです。

皆さんから親しみのあるサポート役として、気軽にお声掛け頂けるよう取組んでいます。



楽しくボランティア

—高齢者サロンで楽しむ—

甲賀地区 高田 信男(園芸 33期)

私は、かれこれ8年間、90数戸の集落の高齢者が毎月集うサロンの一コマを担当するボランティア活動を続けています。

75歳以上の高齢者の方々26名を60歳以上の仲間22名がボランティアの名のもとに、いろいろな企画をしながら皆で楽しく集うサロンです。

最初は、何をすれば喜んで頂けるか？自分は何が出来るか？等々戸惑いの中でしたが、回を重ねる毎に、毎月、歌とお話を約30～40分間担当することとなりました。

パソコンとプロジェクターを駆使しながら懐かしい歌、季節の歌をスクリーンに映し出し、皆さんに歌って頂きます。古い写真を映し出して、皆さんと一緒に昔の暮らしのお話や思い出話を咲かせます。各地で行われたお祭りの写真や動画を映し出して、皆さんに紹介します。画像を使ったクイズも皆さんから好評です。



確かに、前準備はかなり時間を費やします。毎月同じ内容では面白くないですから、あれこれ工夫をしながら組み立てます。時には前日徹夜状態で当日に臨むこともあります。このように、準備から皆さんにご披露するまで、一番楽しんでいるのは私自身なのかもしれません。

最近では、他の自治会サロンからも出演依頼を受けて出掛けていますが、これまた多くの方々とお会いしてお話をする機会が得られて、負担と言うより楽しませて頂いております。

私は、この他にも幾つかのボランティア活動に関わっていますが、負担を感じない程度に、自身が楽しく、心地よい時間が過ごさせて頂けるボランティアとなるよう心掛けながら続けたいと思っています。



訪問レポート

—藤岡茂樹さんの地球一周の船旅・作品展—

水口地区 鈴川 晴一(園芸 30期)

会員の皆様、去年の10月3日の新入会員歓迎会の席上で藤岡茂樹(甲賀地区 陶芸 30期)さんの「地球一周の旅より」と題した講演をお聴きし感動したことを再び思い起こされる「地球一周の船旅」作品展が今年の4月5日～15日迄甲賀町図書館・市民ギャラリーで、そして4月17日～25日迄あいこうか市民ホール・ギャラリーで開催されました。私は、あいこうか市民ホール・ギャラリー開催初日に鑑賞させて戴きました。船上からの景色の描写等素晴らしい作品の数々に感動しました。



今後の個展は、「第10回平和を願う子どもたちの作品展」を8月6日～16日迄、三井寺金堂(国宝)で開催されます。会員の皆様是非ご鑑賞下さい。

同好会活動記

津市石山観音公園石仏めぐりと 関宿散策

里山ハイキング同好会 赤瀬川 忠(園芸 24期)

好天に恵まれた5月21日(木)午前10時30分、「道の駅:あいの土山」に集合した参加者7名は、2台のクルマに分乗して先ずは三重県津市芸濃町の石山観音公園へと向かいました。

この石山の標高は約160メートル、花崗岩の白くて荒い粒が長年の間に固まって出来た石の山だとか。山中には、三重県指定文化財になっている磨崖仏の阿弥陀如来立像、地藏菩薩立像、聖観音菩薩立像の他、西国33カ所観音を模した像など、大小様々な石仏が合計40体程彫られています。

現地のボランティアガイドさん二人の案内で順次参拝して廻りました。中には風化して仏像の顔が判別できない物もありました。途中、山頂で昼食。近くの巨岩「馬の背」と呼ばれる眺望の良い所で記念写真を撮りました。

続いて、東海道53次の江戸から数えて47番目の関宿へ。現在、旧東海道の宿場町のほとんどが旧態をとどめていない中であって、唯一歴史的な町並みが残っている宿場跡です。

関宿の町屋で最も古いものは18世紀中頃の建築物。資料館になっている江戸時代の旅籠や町屋の部屋、調度・道具類を見学しました。

比較的近場に、こんなに良い所があったのか、と参加者一同大満足の石山の石仏めぐり、関宿散策でありました。



支部からのお知らせ

支部定期総会開催

平成27年4月23日(木)水口中央公民館1階 講義室において甲賀・湖南支部定期総会が開催されました。開会の言葉、物故者への黙禱、レイカディア賛歌斉唱、支部長の挨拶に続き提案議案第1号議案から第6号議案までご審議頂き第6号議案を除き全て原案どおり可決承認されました。

○第6号議案の会則改正について

改正前は第14条(慶弔)2項の「会員死亡のときは、本部より香典をお供え支部よりお供えなどして、弔意を表す。」ですが、改正では、出席者からの提案で「会員死亡のときは、本部より香典をお供えし弔意を表す。」と議決されました。

一方、5月26日の本部定期総会で、弔慰金は支出されなくなりました。よって支部より香典お供えし弔意を表すことで当面運用します。(費用は予備費より支出)

尚、正式には28年度支部定期総会で改正します。

副支部長 植西 偉文(28期 陶芸)





○記念講演

総会終了後、講演「水口岡山城址発掘調査から見てくるもの」と題して、甲賀市歴史文化財課の小谷徳彦様を講師としてお迎えし、大変興味深いお話頂きました。

本部定期総会開催

副支部長 植西 偉文(28期 陶芸)

5月26日レイカディア大学草津校第一研修室において、平成27年度定期総会が開催され席上、長寿者慶祝が行われました。

次に各議案が提案され慎重審議により承認されました。

その後記念講演、テーマ「生涯学習とまちづくり」について滋賀大学準教授、横山幸司様よりお話を伺いました。

○ 甲賀・湖南支部より3名の方が長寿者表彰されました、お祝い申し上げます。

- ・安楽 忍様(19期文芸、水口町)
- ・徳地幹夫様(14期陶芸、水口町)
- ・堀井辰雄様(18期園芸、土山町)

○ 報告(会長より)概要

1、総括

- (1) 同窓会本部ならびに専門部会計画事業の成功を期すること。
- (2) 同窓会本部に「新風を吹き込む取り込み」を実施すること。
- (3) 同窓会本部活動と支部活動の違いを見出し・いかすこと。
- (4) 同窓会本部常任理事会・理事会・専門部会の連携を密にすること。
- (5) 魅力ある同窓会活動とは…を何時も念頭におきながら衆知を形にする。

2、活動内容

- (1) H26年5月26日 平成26年度定期総会開催
- (2) H26年8月1日 同窓会入会説明会(草津校)
- (3) H26年8月7日 同窓会入会説明会(米原校)
- (4) H26年8月28日 レイカディア大学必修講座聴講実施(米原校) 聴講者 27名
- (5) H26年9月5日 レイカディア大学必修講座聴講実施(草津校) 聴講者 32名
- (6) H26年9月30日 第15回本部親善GG大会開催 参加者 151名
- (7) H27年1月16日「會報第31号」発行
- (8) H27年1月23日 第7回地域活動事例発表会開催 発表9支部 161名参加

3、会則の一部改正とHP管理規約制定

- (1) 第13条の経費 700円→500円に改正
- (2) 第15条の慶弔→慶祝となり本部からの香典はなくなります。
- (3) 第16条の会員表彰は 削除(なくなりました)
- (4) 滋賀県レイカディア大学同窓会ホームページ運用管理規約制定されました。



平成27年度 第1回グランドゴルフ大会

やや強い風が吹き抜ける5月20日(水)、支部主催の今年度第1回グランドゴルフ大会が甲南の杣川グランドゴルフ場で開催されました。

好天に恵まれ参加者の顔も晴れやか。この日は橋本支部長以下26名が勢揃い。健康福祉部長、奥本さんの開会宣言も元気よく、全員やる気十分で各コースへ向かいます。5月にしては強い日差しでしたが、日焼けを気にするものは一人もおらず、高齢者の強みを発揮しました。

今年新規に入会されたOさんは、支部行事の大会に初参加。「皆さんと親しく話ができて楽しかった。これからも行事に参加したいと思います」との感想。

闘いの結果は、次の通りでした。

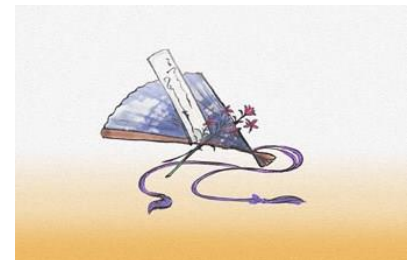
優勝:奥本 静子 準優勝:鈴木 勲 3位:森本 源一

甲西地区 村上 幸一(スポ 23期)



みんなの広場

短 歌



水口地区 安楽 忍(文芸 19期)

吾の好み 知るらし 孫娘のプレゼント
いつれの品も 紫 匂ふ



菓子求め 急ぎ戻れば 玄関に
落椿の 如く 靴の脱ぎあり



随筆 - 子を恋う -

石部地区 大西 幸 (生活科学 21期)

桜も散り毎年この季節になると

「預け家にうたた寝の子を起し来て、冷えびえと花の道帰る」

この愚作を思い出す。

6歳と7歳で父親が急死したわが男児を親に預け、明日はあすはと子らの成長を元気の糧として働いていたことだ。

お陰さまで多くの助けを得て成人してくれた。

しかし九州で生活していた次男が、48歳にて他界。4年になるが、子のことが決して消えることがない。

ひるがえり、2004年拉致被害者の子女らの日本への帰国が一部かなった。あれより10年余、遅々として進まない残された被害者の帰国。再調査さえ知らされない。

彼の国の若き指導者にも幼児がいると聞く。肉親の情を巡り、何ほどかの感慨と憤りが胸を突く。



大西さんの趣味は書道
書道展に何回も入選され、書道教室の師範
「洗耳」とは、
「俗事にかかわりなく暮らすことの喩」だそうです。
本書は、お寺に寄贈されています。



随筆 — 信楽高原鉄道とリサ・ラーソン展 —

信楽地区 大平 稔美(園芸 34期)

信楽高原鉄道に描かれたマイキートレインで信楽へ・滋賀県立陶芸の森で開催されているリサ・ラーソン展にどうぞ、が人気で多くの方々が来場されました。

マイキーとはリサ・ラーソンさんの絵本に登場する赤の縞模様のねこのことです。

普段はあまり陶芸に興味を持っていなかった私ですが今回、小5・小6の孫にさそわれてリサ・ラーソン展を見学しました。

長年信楽に住みながら焼き物と言えば火鉢・木鉢・たぬき・かえるの置物等々しか思い浮かばない私です。

50年来の親友が陶芸家(信楽伝統工芸士)であり、茶器・酒器・食器・花器等々の作品を「ろくろ」で製作しています。茶道の師匠でもあります。

彼の家を訪ねると大きな器で抹茶を立ててくれます。酒好きな私には「ぐい呑み」をいくつか頂いたにもかかわらず、作品を制作している所を見たことはありませんでした。

時間ができた今じっくりと見せて頂こうと楽しみにしております。

その時代・時代に(作家)によって伝統的な焼き物と現在風の焼き物が出来上がる事を知りました。今回のリサ・ラーソンさんの動物や子供たちをテーマにした作品には、物を作る発想と表現力、それと見る人が喜ぶ遊び心が感じられて、感銘を受けました。

特に ねこ・らいおん・はりねずみ・母と4人の子供達の表情豊かな作品はすばらしいと思いました。

信楽高原鉄道と、今回リサ・ラーソン展が開催されている滋賀県立陶芸の森は古い繋がりががあります。24年前に世界陶芸祭が始まって間もなく JR 西日本との痛ましい事故が発生しやむなく中止となりました。私も陶芸祭にかかわっていましたので大変残念な思いをしました。平成25年9月16日の台風18号により信楽高原鉄道の杣川鉄橋が崩壊しました。

17日早朝レイカディア大学の卒業旅行に行くために貴生川駅に行く途中に発見しました。もし列車が通行中だったらと思い、足の震えが止まらなかった事は JR 西日本の事故と共に私の記憶からいつまでも離れないと思います。

廃線止む無しと言われて信楽住民が元気を失いかけていた時期もありましたが、1年2ヶ月ぶりに復旧して頂いた今、信楽を陸の孤島にしてはならない、これからの若人に申し訳が立たない、との地元住民の最大の願いを受け入れて頂きご尽力頂いた関係各位の皆様方に心から感謝しています。

<表紙写真説明>

信楽高原鉄道の車両

リサ・ラーソンの絵本に登場するネコのキャラクター「マイキー」をデザインしたラッピング車両「マイキー・トレイン」です。

本車両のラッピングは、「リサ・ラーソン展」の閉幕(6月7日)と同時に剥がされ、別の車体色になるそうです。 写真提供は、筆者です



編集後記

前にもこの支部だよりに書いたのですが、朝時間の取れるときにはウォーキングをしています。近くの田んぼの農業用の軽トラ以外通らない道や歩道を周回で3コースを歩いています。コースで5~6人はいつも会う人でそれ以外の人を入れると20人くらいが歩いています。行きあうときにはお互い挨拶をしますが、何回も合っているうちに立ち話をするようになり、いろいろの話が聴かれてこちらのテンションを上げてくれます。話には個人の健康管理から地域の情報も入ってきてなかなか楽しいものです。

歩くこと自体は単調なものですが、続けているとこの出会いが健康維持の目的とも合って気力の持続を助けてくれます。

年4回の支部だよりも毎回の原稿集めも大変なのですが、シルバー年代の日常の過ごし方をいろいろな方のボランティア活動、日常体験談、俳句、短歌を通じて知っていただき、参考にしてもらえばというのが編集者の願いです。

ボランティア活動にしてもメンバーの一員として活動されている方が大部分だと思いますが、その活動の一部分でも体験談として出していただければ、何かやりたいと考えている方にはよい助けになると思います。

日常生活にしても繰り返しの中に新鮮な発見があり、この会報への寄稿を続けていただくことにより会員の活力を生むことを期待しています。

広報文化部 高山雅史(地域文化 31期)

